

飼料用米の鶏への給与技術

農林総合研究センター（畜産研究所）

キーワード：採卵鶏、肉用鶏、飼料用米

1 技術の特徴

鶏は他の畜種と異なり、粳米の形で飼料用米を給与することが可能であり、採卵鶏では段階的に配合率を増加することでその比率を40%まで高くすることができる。肉用鶏には28日齢以降の飼料に20%配合しても産肉成績には影響しない、

どちらも農家で簡易にできる配合方法であることから、設備投資等のコストをかけずに、採卵鶏及び肉用鶏に対する飼料用米の利用が可能である。

2 技術内容

本試験には飼料用米品種「北陸193号」の粳米を用いた。

(1) 採卵鶏に粳米を給与する場合、20%まではいずれの飼育ステージでも給与可能である。20%以上を成鶏用飼料に配合する場合は、産卵初期は20%、産卵中期の32週齢から30%、44週齢から40%と段階的に増加するで、粳米の食べ残しをなくすことができる。また、産卵性の低下は少なく、カキガラを飼料用米の10%添加することで卵殻質を正常に維持することができる。卵黄色は40%の配合でヨークカラーファン値が7になる（表1）。

(2) 埼玉県で飼育されているタマシャモコマーシャル鶏に、28日齢及び84日齢から180日齢まで、飼料用米を20%配合した飼料を給与し、ケージ内で飼育試験を実施した。飼料用米給与の有無及び給与期間の長短で発育に差はなく、産肉量も変わらなかった。180日齢で解体し食味試験を実施した結果、飼料用米の配合の有無による食味、硬さに有意な差は認められなかった。これらの結果から、飼料用米の価格を1kg当たり40円で計算すると、飼料用米を配合することで飼料費はほぼ同等かやや安価となり、生産コストを抑制できる（表2）。

3 具体的データ

1 採卵鶏の成績（表1）

50週齢までの産卵成績						
	飼料摂取量 g/羽/日	産卵率 (%)	平均卵重 (g)	産卵日量 (g)	飼料要求率	50週齢時 卵黄色
対照区	93.2	82.4	60.8	50.1	1.86	8.3
20%区	91.1	79.0	58.8	46.5	1.96	8.0
斬増区	94.4	79.1	58.1	46.0	2.05	7.0

2 肉用鶏（タマシャモコマーシャル鶏）の成績（表2）

180日齢の生育と部位別肉重量（研究所での飼育成績）						
性別	米給与開始時	生体重(g)	と体重(g)	正肉(g)	飼料摂取量 (kg)	飼料費の比較
♂	給与なし	4007	3773	1,553	18.28	100
	28日齢～	4067	3753	1,631	19.00	99
	84日齢～	4053	3780	1,596	17.89	94
♀	給与なし	3207	2980	1,055	16.57	100
	28日齢～	3193	3017	1,095	17.09	98
	84日齢～	3200	2980	1,046	16.80	97

注) 飼料費の比較は♂、♀の給与なしを100とした場合の比率
飼料用米の価格を1kg当たり40円として計算

4 適用地域

県内全域

5 普及指導上の留意点

- 1) 小規模採卵鶏農家が飼料用米を利用して自家配合する場合の指針となる。卵黄色は市販の配合飼料と比べると赤味が減少するが、キサントフィルの添加で卵黄色の調整は可能である。
- 2) 採卵鶏、肉用鶏のいずれの場合も飼料用米の価格が40円/kg以下であれば、飼料費の削減となる。また、もみ米で給与できることから取り扱いや保管が容易であり、利用性が高まる。

6 試験課題名（試験期間）、担当

飼料の自給率向上を目指して、飼料用米の生産と新たな給与技術（2009年～2011年）養豚・養鶏担当